

1 学校教育目標

夷隅の空に みんなの声をひびかせよう
「心も体もたくましく とともに高め合う児童の育成」

(1) めざす児童像

- 【やさしい子】 心豊かで思いやりのある子
・子どもらしい元気なあいさつができる子
- 【かしこい子】 自ら学び、考え、表現できる子
・進んで読書に親しみ本をたくさん読む子
- 【たくましい子】 元気いっぱいがんばりぬく子
・命や健康を大切にしよう運動する子

(2) めざす学校像

- みんなの笑顔があふれる学校
- みんなの夢があふれる学校
- みんなの元気があふれる学校
- みんなの思いやりがあふれる学校

(3) めざす教職員像

- 自己研鑽に努め、わかる授業づくりに取り組む教職員
- 児童愛に満ち、一人一人のよさを伸ばそうとする教職員
- 使命感と情熱をもち、ともに高め合う教職員
- 子どもの生命と健康を守る教職員

2 学校経営の方針

- (1) チーム学校の理念のもと、組織マネジメントを生かした効率的で機動力のある学校運営を進める。
- (2) 全教職員が「めざす児童像」の実現に向かって力を合わせて学校経営に参画し、学校教育目標の具現化を図る。
- (3) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図り、「確かな学力」を育む教育活動を展開する。
- (4) 社会に開かれた教育課程の理念のもと、家庭や地域社会と連携・協働し、地域の教育資源や教育環境等を生かした特色ある教育活動を推進する。
- (5) 生命尊重の精神を基本とし、全教職員が危機管理意識を高め、安全・安心な学校づくりを推進する。

3 経営の重点目標と具現化の方策

(1) 組織マネジメントを生かした機動力のある学校運営

- ア 校内の各推進委員会を活性化し、計画・実践・評価・改善（PDCA）のサイクルによる計画的運営を継続的に実施するとともに、若手教員育成のためのOJTの機会を進んで取り入れるように努める。
- イ 「報告、連絡、相談、記録」を確実にし、風通しのよい職場をつくるとともに、本校の課題を全職員が共通理解し、全員が参画することで組織の活性化に努める。
- ウ 学校評価及び学校評議員制度を活用し、教育課題を明らかにし、学校改善に役立てる。
- エ 家庭・地域の教育力の向上と地域の力を引き出す学校教育活動を推進する。

(2) 学習指導の改善と質的向上

- ア 「『思考し、表現する力』を高める実践プログラム」及び授業実践資料等の活用を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。

- イ 基礎・基本の確実な定着を図ると共に、各教科の学習活動全体を通して言語に対する興味関心を高め、思考力や判断力、表現力を育てるよう努める。
- ウ 指導目標の明確化と指導方法の工夫改善による毎日の授業の質的向上を図る。
- エ 一人一人の特性に応じた学習や問題解決的学習・体験学習を取り入れ、自ら学び自ら考えたり、児童相互が関わり合いともに高め合いながら学んだりする活動の充実を図る。
- オ 少人数指導や個別指導、専科授業等、一人一人に応じたきめ細かな指導を推進する。
- カ 聞き方、発表の仕方等の学び方や学習規律の定着を図る。
- キ 家庭学習の習慣化を図るため、「ちばっ子チャレンジ100」、eライブラリー等の活用を促進する。
- ク 学校図書館の活性化を図るとともに、朝読書やボランティアによる読み聞かせ、調べ学習等の読書活動を充実させ、進んで読書に親しむ意欲と態度を育てる。
- ケ 地域人材や自然、伝統文化、歴史などの地域の教育資源を積極的に活用し、児童の興味・関心等にはたらきかける授業の実践に努める。
- コ 自己決定の場や機会を設定する等、自己存在感を高める生徒指導の機能を生かした「わかる授業」の展開に努める。
- サ 全国学力学習状況調査や県標準学力検査の分析結果から自校の課題を洗い出し、学力向上プランを作成し、推進する。

(3) 道徳教育の充実

- ア 道徳教育推進教師の役割を明確にし、「考え、議論する道徳」を意識した指導方法や評価の工夫・改善を図る。
- イ 道徳科の時間をはじめ、学校教育活動全体を通して、一人一人の道徳的実践力を培うとともに、多様な体験活動を通して豊かな心の育成と規範意識を養うよう努める。
- ウ 保護者や地域の方が参加して行う地域の教育力を生かした取組を推進し、学校・保護者・地域が連携し、児童の道徳性を養うよう努める。
- エ 映像教材を積極的に活用するなど、授業の改善・充実に努めるとともに、進んで地域への授業公開を行う。

(4) 特別活動の充実

- ア 学級活動や学校行事等を通して、児童の自発的な活動を展開し、集団の一員として互いに認め合い、協力し合って、楽しい学校生活を過ごそうとする態度の育成に努める。
- イ 地域への奉仕活動や体験活動の充実を図り、豊かな人間性や社会性の育成に努める。

(5) 特別支援教育の推進

- ア 一人一人の障害特性や教育的ニーズに応じた合理的配慮の充実を図るために、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成し、一人一人が充実した学校生活を送れるよう努める。
- イ インクルーシブ教育システムの推進に向け、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の充実に努める。
- ウ 特別支援教育コーディネーターを中心に学校全体で協力体制を作り、児童同士や教員との好ましい人間関係を育てるための連携や交流学習を進んで取り入れる。
- エ 特別支援アドバイザーや特別支援学校に配置された専門性の高い外部人材を活用し、特別支援教育に関する専門性の向上に努める。

(6) 生徒指導・教育相談の充実

- ア アンケートや個別面談を実施し、いじめの早期発見に努めるとともに、教職員個々の相談スキルの向上と組織的な相談支援体制の構築を目指す。

- イ 学校教育活動全体を通して、一人一人が自己の存在感・充実感を味わえるようにし、組織的・計画的な生徒指導を一層推進し、好ましい人間関係をつくり上げていけるようにする。
- ウ 縦割り班の活動を積極的に取り入れ、異年齢集団の一員としてのあり方を学び、豊かな人間関係づくりやコミュニケーション能力の育成に努める。
- エ 家庭や地域社会との連携を深め、地域の伝統や文化・歴史や風土にふれる機会を設定しながら文化的体験や社会体験、ボランティア活動の充実に努める。

(7) 健康・安全・防災教育の推進

- ア 教科体育の充実、外遊び、休日の運動や屋外活動を励行し、運動に親しむ資質・能力の育成と体力の向上に努める。
- イ 生涯を通じて健康な生活を送るために必要な生活習慣や生活態度を育むように努める。
- ウ 心身の発達に応じた安全教育を推進し、顕在的・潜在的危険を察知する能力と自他の命を大切にする心の育成を図る。
- エ 食に関する指導の充実を図り、望ましい食習慣の定着に努める。
- オ 地震、風水害などから児童の命を守るため、防災体制の整備や見直しを図るとともに、防災教育や防災訓練等を通して、児童が災害発生時の危険について理解し、正しい備えと適切な判断のもと、安全な行動がとれるようにする。

(8) グローバリ化・情報化に対応した教育の推進

- ア 各学年の段階に応じて、ICTを活用した情報活用・処理能力の伸長を図る活動場面を積極的に取り入れるとともに、情報モラル教育を推進する。
- イ 外国語活動、外国語科の目標に基づいた授業改善を図るとともに、ALTとの交流活動を通して、英語に対する興味・関心を高め、コミュニケーション能力の向上に努める。
- ウ 日本の歴史・文化、また地域の伝統や風土についての理解を深め、自己の考えなどを主体的に発信する力を育成する。

(9) 系統的なキャリア教育の推進

- ア 自分を知り、自分との関わりのある人に関心をもち、夢をもったり、自分の仕事を一生懸命に行ったりできるよう、学年に応じた勤労観・職業観の育成に努める。
- イ 特別活動を要としつつ、全ての教育活動を通して、社会的・職業的自立に必要な基盤となる資質・能力の育成に努める。
- ウ キャリア・カウンセリングの機会を確保し、一人一人のキャリア発達を支援するとともに、「キャリア・パスポート」を活用し系統性のある指導を展開する。

(10) 教職員としての資質・能力の向上

- ア 教職員一人一人が課題意識を持って学校経営に参画し、資質・能力の向上が図れるように努める。
- イ 校内研修の活性化を通して、資質・能力の開発・向上を図り、活力ある教育活動を推進する。
- ウ 学力向上、授業力向上に向け、相互授業参観や外部研修等を奨励し、指導法の工夫改善を図る。
- エ 不祥事根絶研修やモラルアップ委員会を中心に、教育公務員としての使命感や倫理観の涵養に努める。
- オ 人間性豊かな子どもの育成に向け、教職員自らが人間性を高めるための研究と修養に努める。
- カ 子どもの生命・安全を守ることを最優先に、危機管理意識、防災意識を高めるための研修を校内研修に位置付ける。
- キ 若手教員育成のため、管理職やベテラン教員によるOJTを推進する。